

地質情報基盤センターの2021年度研究戦略

佐脇 貴幸¹⁾

1. 地質情報基盤センターのミッション

2020年度から開始された産総研第5期中長期計画において、地質情報基盤センターは、「地質情報の管理と社会への活用促進」を推進することをミッションとしています。すなわち、産総研2号業務「地質の調査」の実施によって得られた研究成果の総体である地質情報が、社会的に広く理解・共有され、安全・安心で質の高い社会生活の実現に資すること、さらにはそれが社会課題の解決に結びつくことが重要です。そのために、地質情報及び地質資料の管理、公開、提供、及び研究成果の普及活動を継続的に実施します。

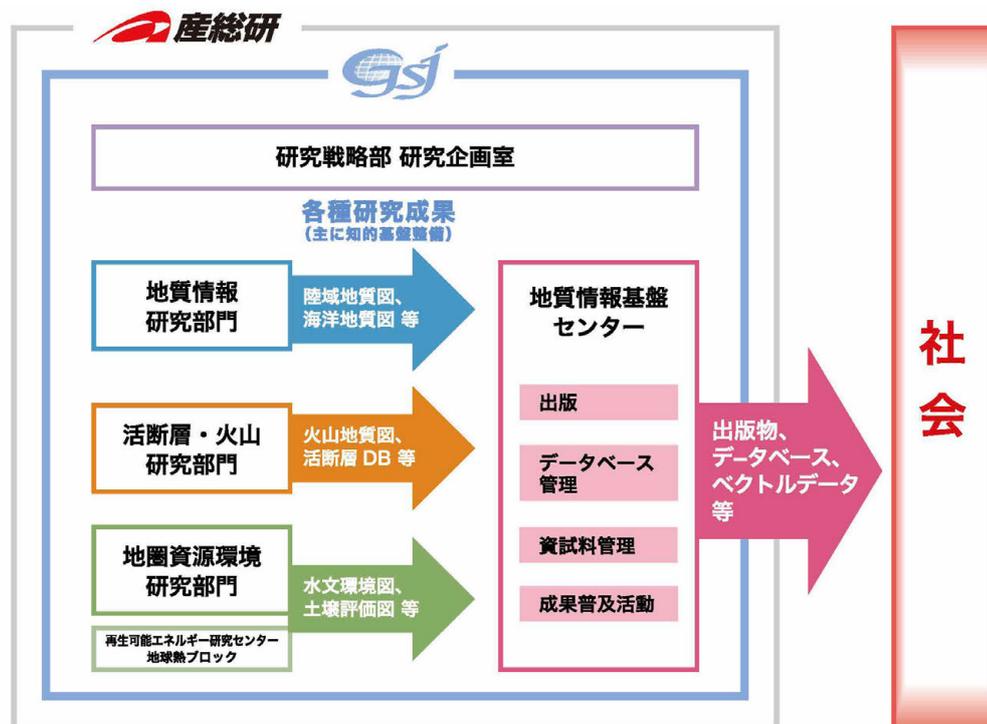
2. 地質情報基盤センターの2021年度取り組み

上述の「地質情報の管理と社会への活用促進」のために、地質情報基盤センターでは以下の方針に沿って業務を進めます(第1図)。

- 研究部門により整備された地質情報の着実な出版と、地質情報デジタルデータの発信。
- 公表された地質情報の一次データ(資試料)のアーカイブ管理による、当該成果の科学的根拠の保証。
- 地質標本館での新規展示・特別展等による、社会への地質情報の普及促進。
- 地質試料調製業務による研究実施支援。
- 博物館実習、薄片技術研修等の実施による外部人材育成。
- 以上による知的基盤整備計画の着実な実施、及び地質情報の二次利用促進の支援。

上記の方針に沿って、2021年度には、以下の業務を実施することとしています(第2図)。各業務の末尾には、担当室名を付記しておきました。

- 研究部門により整備された地質情報を、高精度で信頼性の高い地球科学図類、研究・調査報告書等として編集・出版。【出版室】
- 利活用性の高い地質情報提供システムの維持・改善、



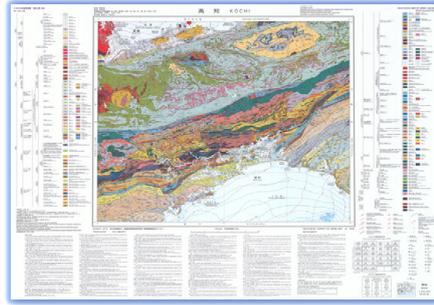
第1図 研究成果の創出から社会への成果発信へ

1) 産総研 地質調査総合センター地質情報基盤センター

地質図類の出版



地質情報データベースの管理



地質標本館での成果普及



地質資試料の管理

第2図 地質情報基盤センターの主たる業務

標準データ形式でのデータ整備。 【整備推進室】

- GSJ 公式ウェブサイト・地質情報データベース群の安定運用のためのシステム管理、及びデータベースの新規公開・改修・データ更新等の支援。 【整備推進室】
- 機関アーカイブの定常的な運用を通しての、研究基礎データの組織的な管理。 【アーカイブ室】
- 新旧の各種地質関連文献の収集、及び地質文献データベースの整備による、地質調査総合センター所蔵書誌情報の一般への提供。 【アーカイブ室】
- 地質標本（化石、岩石、鉱物等）の継続的な新規登録と整理、及び登録標本のデータベース化推進を通して、所内外における地質標本の利用促進の支援。 【アーカイブ室】
- 最新の研究成果に関する、地質標本館での展示物作成、特別展での紹介、及びコロナ禍を考慮した、所内外でのイベント・出展実施あるいは他機関協力。 【地質標本館室】
- 研究推進を支援する地質試料調製業務の確実な実施、及び処理技術の向上。 【地質標本館室】
- 大学や地質関連企業等からの実習生に対する、博物館実習及び薄片技術研修。 【地質標本館室】

以上が主たる業務計画の内容ですが、社会的環境の変化、例えばコロナ禍の状況変化、データ配信技術の進化、産総研の各種ポリシーの制定・更新等の内外の変化に対応し、解決すべき課題に積極的に取り組んで対処していくこととしています。

特に、コロナ禍は、まだまだ先の見通せぬ大きな社会問題です。地質情報基盤センターが直接この災厄を解決できるわけではありませんが、所内でのこれまでの COVID-19 対応を継続し、安全衛生に十二分に配慮した地質標本館の運営と成果普及活動、技術研修等を実施することで、継続的に地質情報の普及促進に努めていく所存です。

謝辞: 第1図は地質情報基盤センターの都井美穂氏に作成していただいています。ここに記し御礼申し上げます。

SAWAKI Takayuki (2021) Working strategies of the Geoinformation Service Center in FY 2021.

(受付：2021年4月27日)